



新竹敏郎さん・月子さん夫妻



安登小島地区

美しい砂浜が広がる安登の「小島地区」に暮らす、新竹敏郎さん(81才)・月子さん(73才)ご夫妻は柑橘を主に栽培する専業農家。大正時代に敏郎さんの祖父が入植されました。現在、新竹さん兄弟のみのわずか2世帯の集落ですが、昔は畑が山の中腹まで広がり、小用(川尻町)から沢山の人が伝馬船で通い耕作していたそうです。「子供の頃は父と毎日農作業し、安登小学校へは山を越えて通学したが、苦勞とは思いませんでした」と話し、「不便な地ですが生まれ育った場所、子供たちの故郷は残しておきたいから」と、笑顔で話す温厚な人柄が印象的。耕作面積は1/5に減少したが、体力の続く限り夫婦で頑張って市場へ出荷したいとのこと。安浦ブランドの柑橘や小芋を絶やさぬようしっかり応援したくなりました。

安登小島地区の
新竹敏郎さん



※車では川尻小用からしか行けません

～安浦から世界へ～ 安登浄念寺で安達瞳子の花道作品



長男 樹(いつき)くん 2代目 安達瞳子さん



初代 安達瞳子

花芸安達流2代目 安達瞳子(東京在住)さんが、正月に出身地の安登「浄念寺」に帰郷し、本堂前に作品を展示しました。初代の瞳子さんは、着物が似合う花芸安達流の家元として、20代から文筆やテレビ界でも有名でしたが平成18年に没。2代目 瞳子さんは、27才で襲名し全国支部の行脚や著書の出版、大学講師など各方面で活躍しています。安達の花の始祖 安達潮花(あだちちょうか)は“椿”、初代 瞳子は“桜”をテーマにした作風でしたが、「私はその両方を追い求めていきたい」と語り、「花道は生活の芸術として身近にある素材を生けて楽しんでほしい」と話していました。全国で活動していますが、心はいつも故郷にある2代目安達瞳子さんです。



安登浄念寺で作品を展示

花芸安達流

明治20年 安達潮花 安登浄念寺に生まれる
大正6年 安達式挿花を興し近代花道史に不動の足跡を残す
昭和48年 初代安達瞳子 花芸安達流を主宰
昭和54年 安達育(後の2代目瞳子) 安登浄念寺17代高潤師の長女に生まれる
平成2年 初代瞳子の養女となり師事
平成17年 副主宰に就任
平成18年 2代目安達瞳子を襲名

～お雛様がいっぱい～ 松浦さんの自宅で展示



女の子のすこやかな成長を祈る「雛祭り」。安登東の松浦健一さん(69才)・真知子さん(65才)の自宅には、1階から2階に所狭しと「ひな人形」が飾られています。12年前、孫の初節句から収集が始まり、旅先で購入したり、友人から譲ってもらったり、自分の手作りも含めて200体あまりに増えていきました。「毎年、どうしたら人形が引き立つかを考え飾りつけに1週間ほどかかりますが、苦勞でもあり楽しみでもあります」と妻の真知子さん。様々な段飾りのなかで、昭和10年代の貴重なものも展示しています。2月初めから3月末までの期間、希望すれば見学できるそうです。古式ゆかく飾られたやさしい表情や顔を眺め癒されてみませんか。



昭和10年代の雛飾り

■問い合わせ 安登東 2-3-13
☎ 84-5349 松浦

～一世紀の時を越えた木造校舎～ 旧 野路北小学校



昔の様子を語る 光山雅義さん

明治43年建設の校舎 屋根の油瓦は当時のもの



昭和初期の校舎の様子 女性による消防団



正門 なんと大正初期に作られた塀と門です



校舎表側 長い廊下が懐かしい雰囲気を与えます

平成15年に閉校した野路北小学校の校舎は明治43年に建設されたもので、安浦町内に現存する校舎の中では一番古いものです。

窓枠などは新しいものに代り入口はスロープも付きましたが、壁や床板、瓦などは建設当時のままです。昭和16年尋常小学校高等科を卒業するまで8年間この学校に通った藤本在住の光山雅義さん(88才)は、「私らの頃は複式学級で初等科1・2年、3・4年、5・6年生、高等科の1・2年生が一緒に教室で授業を受けました。忘れ物をして校門の前に立たされたこと思い出します。」と昔と変わらない校舎を久しぶりに見て懐かしんでいました。

今も朝市や運動会など地域が使用し大切に管理しています。明治から平成まで赤向坂の人たちと歩んできたこの校舎は、安浦の貴重な遺産ではないでしょうか。後世に伝えていきたい建物ですね。



閉校直後の様子 右側校舎は昭和30年建設(現在はありません)

(旧) 野路北小学校の移り変わり

明治8年(1875)～ 赤向坂村「明倫館」創設
明治11年(1878)～ 赤向坂小学校
明治20年(1887)～ 赤向坂簡易小学校
大正8年(1919)～ 野路北尋常高等小学校
昭和16年(1941)～ 野路北国民学校
昭和22年(1947)～ 安浦町立野路北小学校
平成15年(2003)～ 閉校



大正初期の様子当時、校庭は今の半分以下でした

TANNTO 発刊限定
温泉が無料!!



グリーンピアせとうち おかげ様で30周年!

このたび30周年を記念して 安浦町民を無料温泉にご招待! 3月31日まで
TANTO22号(今号)をそのまま切り取らずにご持参ください
※1部で1世帯に限ります。3/20までの平日は駐車場無料(※土・日・祝及び3/21～3/31は有料となります)
※タオルはご持参ください。

お問合せ 0120-846-620 (フリーダイヤル) グリーンピアせとうち

第3回 蔵祭り

盛川酒造の蔵開きイベント
とき: 平成27年4月12日(日)
時間: 10:00～
場所: 盛川酒造(安浦町原畑44)
お問合せ: 84-2002(盛川酒造)





道中は登り道ですが、途中に里程地蔵が祀っています。道しるべに導かれて登れば疲れを忘れ、約40分で三本松公園に着きます。ここは桜の名所と憩いの公園で見事な桜（ソメイヨシノ）が咲き乱れます。案内もここで一休み。（花に酔った方は安登駅方面への下山道の利用も。約30分）

安浦の中国自然歩道を歩こう！

～野呂山ルート その1～

亀山神社 → 1.8km → 内平バス停付近 → 0.9km → 三本松公園入口 → 1.9km → 三本松公園
案内延長：4.6km、約1時間30分です

前回は「内海・仁賀ルート」を案内しましたが、今回は「野呂山ルート」の一部として、亀山神社から三本松公園までの行程を紹介します。神社から南谷方面（内海北5丁目）へ向かいます。（左の地図を参考）その後は標識に従い野呂川を渡って盛川酒造前を通り、内平バス停付近に出て市道を中切の三本松公園入口まで進みます。途中、旧野路中切小学校を過ぎた下り坂に、平家伝説の「榎木峠の地蔵」があります。

三本松公園入口からは野呂山へ向かいます。（ここから森神社を経て国道185号の野呂登山口バス停までルートの一部となっており、余裕があれば往復してみても？）



三本松公園



里程地蔵

4代目となる
済世丸100



～済生会について～

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）に設立。以来100年以上の活動をふまえ、日本最大の医療機関で54,000人が医療・保健・福祉活動を展開しています。広島県では、済生会呉病院・広島病院の2つの機関があります。



塩谷海岸に着岸。検診を待つ人々

“海をわたる国内唯一の診療船” 瀬戸内海巡回診療船「済生丸」

瀬戸内海の島々を巡って検診を行う船があるをご存じですか。1昨年「海の上の診療所」でドラマ化され、少しは認知されたでしょうか。

済生会の「済生丸」は、瀬戸内海の島を巡り、自治体と協力しながら健康診断を行っています。その船が島以外で唯一、安浦に寄港するのです。12月18日、塩谷の岸壁に、平成26年に就航した真新しい4代目済生丸がやってきました。日ノ浦・沖之手地区30人ほどの人達が入港を待ちわび、早速検診を受けていました。離島診療の船が、何故、陸地の沖之手に来るのか？と思いますが、昔は交通の不便な地だった歴史があり、当地区のみ現在も診療が続いているのです。

住民からは「毎年2回来てくれて検診無料なので助かってます」と笑顔がこぼれていました。高齢化が進むなか、済生丸は健康を守る船としてこれからも、地域医療に貢献していきます。



待合室は地区の集会場のよう



機器が充実した船内。地域の健康をサポート

おでかけ情報

4月 稚児公園・三本松公園・野呂川ダム公園の桜 4月上旬
※稚児公園は夜桜用ポンボリを設置します
きらめき音楽館 4月11日（土）11:00～ きらめきホール
第3回 蔵祭り 4月12日（日）10:00～ 盛川酒造前

5月 いなし安浦青空市 5月16日（土）8:00～ いなしふれあい広場
くれまちかどコンサート 5月16日（土）14:00～ きらめきホール
6月 きらめき音楽館 6月6日（土）11:00～ きらめきホール
安浦のホタル 6月初旬～中旬頃 野呂川沿い（原畑～市原）・中畑他
いなし安浦青空市 6月20日（土）8:00～ いなしふれあい広場



だるま食堂

安浦町中央1丁目2-16 ☎84-2201

昔も今も愛される
昭和の中華そば

町の移り変わりを見続ける「だるま食堂」



店主
川本 姍記子さん



先代の川本真次さん・イトさん
（昭和30年頃）



テーブル・イスは創業当時のまま



人気のおでん



昔ながらの自慢の中華そば

営業時間 11:00～14:00 定休日 日曜・祝日

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様
変わりする景色
や人々の暮らし。
懐かしい風景を
ご覧ください。

中央3丁目 県道34号周辺



当時は国道185号で周辺は農地が多く車も走っていない【昭和32年】



現在は金融機関や商店、道路も整備され町の中心地となっている

中央6丁目（三津口古新開）



この一帯は帝国製鉄・日伸製鋼など工場や町営住宅があった【昭和46年】



現在は県道バイパスや住宅が整備され、IHI運搬機械の工場用地となっている